

して行くべきものであつて、積極的に交通網完成の爲め大に支出することは私の賛意を表する所である。

道路改良會にては曩きに道路の改良事業促進方に付き内務鐵道兩大臣に建議書を提出したのであるが其理由の一として失業救済の目的を達する手段としても道路の改良が最も適切であることを具陳したのであるが、此の建議案の趣旨を政府に於て幾分が認容せられ、今日失業救済の爲道路公債を發行せんとするに至りたることは、道路改良會としても亦大に満足して可なることであらふと思ふ。

道路の進歩に就て

藤原俊雄

道路の進歩に就ては我國文化施設の中最も注意の行届かなかつた一つであつて、多年の間道路を舗装するといふが如きことは國民の夢にだも想ひよらなかつたことである、それは國民の履物が西洋各國のそれと異り、その生活様式住宅の内容が孤獨的であつたといふことが大きな原因であつたらうと思ふ。併し近來段々生活の様相も歐米化して來た結果一般公衆も稍々理解が付いて、各都市

が競ふて大經費を投じて道路を舗装するやうになつたといふことは洵に欣ぶべき傾向である。

斯の如く我國の道路が面目を一新したといふことの主なる原因は社會の大衆から仇敵視せられて居つた所の自動車の増加といふことが、斯様な進展を促すに與つて大なる力を致したものと謂はなければならぬ。而も我が東京市の如き僅か數年の間に殆ど市の内外を通じて主要道路が舗装せられたといふことは世界にその類例を見ざる程で實に驚くべき進歩である。諸外國に於ても五十年前より既に道路の舗装を見て居るが、我が東京市の如き急激なる進歩を見たるものは蓋し稀なる事であつて、日本の進歩は過去六七十年以來のことであるに拘らず、産業教育其他有ゆる百般の文化の状態が歐米先進國に競ふ程に進歩したといふ發展振りには諸外國人から驚歎の言葉を受けて居るが、蓋し十數年前に東京を見て、日本に若し米が足りないならば東京市中の道路に稻を植ゑたら宜からうと嘲つた所のバンダリップの如き人が、今日の東京の道路の状態を見たならば定めし驚歎するであらうと思ふ。

一九一〇年に紐育市が二千二百哩の道路を舗装した。丁度是が紐育から倫敦に達するだけの延長哩數を持つて居るといふことで、當時紐育市の土木局長が非常に誇つてゐた余の會見記憶談であるが、蓋し米國中一流に整頓した所の街であつたのである。當時はニューオルリアンス桑港の如き樞要なる開港市に於てさへ主要道路の中央は丸石を以て疊まれて居つて、舗装道路の如きは極く僅少部分にしか過ぎなかつたのであるが、一九一〇年以後に於ては漸次自動車の盛に使用せられるや

うになつた結果、昔日の丸石疊みは撤回されて悉く舗装道路となり、馬の蹄を以て石を叩く騒音や、或は馬蹄下から火花の散るやうな状況は今日は夢想だもすることが出来ぬやうな有様となつた。ついで數年前までは哈爾濱の露西亞街も矢張丸石疊みであつたけれども、東洋の邊陲市街であり産業も振はず唯露西亞人の政治的名譽心の結晶であると謂はれて居る所さへ、今や舗装せらるゝやうになつたといふことは、是れ一に自動車の發達が齎したる餘澤と謂はなければならぬ。

道路の進歩と經濟上の利益

道路の舗装せられることに依つて經濟上如何なる利益を得るか、昔日の道路に於ては一二時間雨が降るといふ場合には泥濘恰も水田の狀を呈し、市街の中央に於ても高下駄を履き拾ひくりにしか歩き得なかつたものである。隨て雨降りの度毎に市中に遊んで居る子供の此の泥道に轉んで着物を汚して居るのを見ることが屢とであつたが、今や道路の舗装せられることに依つて斯の如き景を見ないやうになり、外は家庭に於ける斯ういふ子供の被服詰り家庭經濟より風俗習慣が改善せられ、嚴然たる都市の狀態を呈するに到つたといふことは、洵に欣ぶべき現象と謂はなければならぬ。

又荷物の運送の如きも、泥濘中を手車で以て運搬した場合には、僅か五六十貫の荷物を市の中央若くは船着場停車場等から運ぶのに一日を要し、今日のトラック三噸積に對する運賃と殆どその料金を同じうしたといふやうな有様であつたのである。然るに今日は舗装道路の上を自動車で以て運

ばれるといふことに依つて輸送運賃は大に低下せられ今年農産物の價格が非常に低落したといふことは豊作とその供給の關係もあるであらうけれども此の輸送の關係に依つて大に市民生活を容易ならしめたといふことは争ひのなき事實である。

況や自動車を運ぶ者のガソリン、タイヤの經濟隨て車體に對する振動車軸の耐久力等に及ぼす利益を擧げると夥しいものがある、隨て極端なる料金の低下を來し、以前には一時間五圓で運ばれた自動車が今日は五十錢や一圓で行き、短距離は例の「圓タク」と稱するものが二三十錢で運ぶことが普通になつたといふことは、一に競争の結果或は自動車代金の低落に起因するかの如く考へられて居るけれども、主なる理由は自動車の經濟化が誘致したもので是亦道路の改良せられたことに歸さなければならぬ。大北鐵道のヒル氏が、日本國民は道路の悪いことに依つてその生活經濟の上に一人當り一日平均八錢づつの損をして居ると言はれたけれども、今日此の改善せられたる道路を見たならば、蓋し驚歎に堪えないであらうと思ふ。

單に市街道路の改善のみならず、延いて地方道路の改善まで促進せられるやうになつたならば、直に算盤の上に明瞭になることではないかも知らぬが、不知不識の間に受くる國民生活上の利益といふものは實に多大なるものと謂はなければならぬ。

衛生上の利益

次に見逃すべからざることには衛生上の利益である、彼の泥濘を極めた時分の市街道路といふものは實に非常な埃であつて晴天乾燥の日は殆ど空氣が埃に充たされて居つて市民は宛も泥水の中に入れられた鯉の如き有様で市街生活をして居つたのである。併しこの一旦舗装せられた街道に住んだ者は、恐らく昔日の泥濘田をなす所の街路に面し、この黄塵充滿の中に住むことは到底出來ないことであらう。

我輩は度々、栃木縣日光に自動車を運轉したことがあるが、栃木縣に入ると殊に古河、小山、鹿沼等の小さい町が特に舗装せられて居つて、餘程贅澤な縣治政策であるとのみ感じて居つたのであるが、日光への沿道は東京から自動車を運ぶ人が多い爲に、その沿道の人々が埃に堪えられなかつたのであるといふことを今日に至つて察し得た。

我輩の經驗に依ると、日比谷街頭に事務所を置いて、數寄屋橋附近がまだ舗装の出來なかつた當時に於ては、幾ら窓を締めて置いても、机の上には埃が山積して、窓の隙間から入る所の埃を防ぐべき設備はあつても、尙且つ一時間毎に机の上を掃除せざるを得なかつたのであるが、最近附近の舗装と共に斯かる打綿みたやうな埃も殆ど立たなくなり、机の上の掃除の如きも一日一回で済むやうになつた。是は舗装せられたことに依つて衛生上如何に利益を得られるかといふことを實證する一例である。

最近郷里の某地方に屢々歸省して、舊き田舎家に住んで見る所が、一日に百七十回も貨物自動車か

庭前を往復する爲めに椽側は終日眞つ白になつて居つて障子を明けて置くといふことは全然出來ない、此の一日百七十回も一、二噸の貨物を積載したものが非常な勢を以て埃を立てゝ疾走するといふことの如何に沿道の人々を衛生的に害して居るかといふことが察し得られるのである。栃木縣の如きは福島縣と相並んで故の三島縣令に依つて道路政策に於ては最も進んだる縣下であるだけ、時代に應じたる設備も他縣より進んで居るといふことを見るのであるが、早晩各府縣の道路政策も單に道幅を擴げたり路床を堅固にするといふのみならず、進んで鋪裝を施すといふことになつて來なければならぬことは、經濟上衛生上當然の歸結であると謂はなければならぬ。

各府縣の道路修繕費

今各府縣の道路修繕費を見るに、如何に貧弱なる縣下に於ても一里平均二三百圓乃至五六百圓の道路修繕費といふものが計上せられて居る、さうして各府縣下には四五ヶ所乃至七八ヶ所の道路管區を設け、どの道路區域は何處の管區に屬するとしてそれ〴〵職員を置いて道路の修繕をなすことになつて居るが、併し何處の縣に行つて見ても一里平均三百圓、四百圓、五百圓もの金を使つて居るだらうといふやうには道路修理が行届いて居ない、府縣道路に於て修理工夫が缺を提げ砂利を運んで居るのを見ることは甚だ稀であるのに、尙且つ交通頻繁なる箇所には平均經費を融通して一里に付き七八百圓乃至千圓以上も消費して居るといふことである。

我輩は此の道路經費に付ては頗る疑念を懷いて居る者であるが此の頃或人に聞くと府縣經費中の最も大なる項目中には府縣會議員の交際費或は種々なる手段に依り請負金額を節減してさうして色々な事に流用せられるやうなカラクリがあるといふことである。果せる哉行政費用の多額な割合に管區出張所が設けられて居る比例にどうも道路が完全して居ない年々道と共に砂利を食ふといふやうなことを聞く。是は今日の行政状態已むを得ないのであるか知らぬと思ふのであるが併し經濟衛生實用の方面から國民の注意を喚起したと共に最近失業救済といふ必要に迫られて、現内閣が従來の非募債主義政策を放棄して内務省は道路公債だけは各府縣に許すといふことに出たといふことは是は目的の爲には手段を選ばぬといはれるかも知らぬが我國文化に對する一大エボツクを劃する所の福音であると謂はなければならぬ。更に此の考を今一步進めて道の幅員を擴げ、路床を固めるといふ上に鋪裝を施すといふ所まで進んで來ることを切望して已まない者である。

若しも路床を固め之に鋪裝が施されて田舎道までも市街道路の如くになつたならば恐らくは大都市に接續して居る所の農村の振興をして著しく顯著ならしむることが出来るであらうと思ふ。當に市街地附近の農村のみならず、山奥に存在する所の農村も總て都會地に供給する所の嵩ばつた重量のある林産物即ち木炭木材若くは果實茸類といつたものも、何分にも運賃が高いので輸送が思ふやうに行かないといふ結果頗る高價なものとなつて居る之を信州の山奥より鐵道運賃に依つて二十五錢三十錢と取られる所の木炭が驛より隔れた山奥から直接自動車に依つて二十五錢三十錢で

來るやうになつたならば都會の市民生活も非常に樂になり又木炭商も利益を得ることが出來所謂經濟上非常な進歩を見ることが出來るであらう又粟とか松茸といつたやうな天産物季節物の如きも運賃が遞減されればそれだけ安いものを都會人士に供給することが出來るのである。實に道路の改良進歩は輸送運賃の遞減せられることに依つて邊陲の地と都會地との物價の均衡を促す所のものであると謂はなければならぬ特に今回内務省が道路公債を募つて失業救済の爲とは謂へ道路を開拓しやうといふことに着眼せられたといふことは洵に欣ぶべき傾向であると思ふ。

昭和六年を迎ふるに際し道路の進歩に就き聊か自分の所感を開陳する次第である。

受益者負擔金に關する法規整備の要

田 中 廣 太 郎

廣く受益者負擔の制を索ねれば市制町村制や都市計畫法道路法河川洪砂防法等にまで及ぶが茲に論述しやうとするのは主として都市計畫法第六條第二項に依り受益者負擔の制に就てある。